

## 研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB	条約遵守制度に関する包括モデルの探求—地球環境・人権・軍備管理における創造的展開				
研究テーマ (欧文) AZ	Study on the Integrated Models of Compliance System : Creative Dynamism Concerning Global Environment, Human Rights & Arms Control				
研究氏 代 表 名 者	カナ CC	姓) ニシイ	名) マサヒロ	研究期間 B	2008～ 2010年
	漢字 CB	西井	正弘	報告年度 YR	2010年
	ローマ字 CZ	NISHII	MASAHIRO	研究機関名	京都大学
研究代表者 CD 所属機関・職名	京都大学大学院人間・環境学研究科・教授 (2010.4より) 大阪女学院大学国際・英語学部 教授				
概要 EA (600字～800字程度にまとめてください。)	<p>本研究において、まず地球環境条約の実効性を確保するための遵守制度に着目し、個別環境条約の遵守制度を検討すると共に、「国際社会の一般利益」の実現を目的とする規範を有している人権条約及び軍備管理条約との比較検討を行った。</p> <p>環境条約においては、条約の不遵守に対して、制裁的措置は名目的な存在に過ぎず、締約国会議(COP)は、条約目的実現のため、事務局及び遵守委員会を通じて支援協力を行うことを中心としている。人権条約においては、条約実施機関による改善勧告は、人権侵害被害者の救済を目的としており、条約遵守の是正措置は、フォローアップの制度として、実行上形成されてきた。軍備管理条約においては、軍縮または不拡散の目的を遵守によって確保しようとするものであり、国家からの情報提供を基礎としてこれを国際監視機関が検討・検証する。</p> <p>不遵守手続の開始について、環境条約が、他の締約国の申立、事務局の申立に加えて、不遵守国自身の申立を認めている点に特徴がある。人権条約も、他の締約国からの申立を条約上規定してはいるが、欧州人権条約を除いて全く機能しておらず、被害者からの申立によって開始される。軍備管理条約は、締約国の全てに査察を開始させる権限を認めてはいても(例えば、化学兵器禁止条約)、その援用はほとんどなされておらず、国際監視機関における検討を通じて、不遵守の状況を明らかにし、勧告的・促進的な措置がとられることはあっても制裁的な要素は含まれてはいない。</p> <p>この研究結果として、「国際社会の一般利益」を追及する条約システム一般においては、その不遵守に対して、条約上設けられた機関が、国家代表であるか個人資格であるかを問わず、制裁的な措置を採るのではなく、勧告的・促進的な措置を採るようなモデルが、「包括モデル」として考えられるべきである。</p>				
キーワード FA	条約遵守制度	地球環境	人権	軍備管理	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	対人地雷禁止条約とクラスター弾条約のダイナミズム—条約プロセスへの NGO の関与に着目して							
	著者名 <sup>GA</sup>	阿部達也	雑誌名 <sup>GC</sup>	ジュリスト					
	ページ <sup>GF</sup>	63～73	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	1	0	巻号 <sup>GD</sup>	1409号
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>								
	著者名 <sup>GA</sup>		雑誌名 <sup>GC</sup>						
	ページ <sup>GF</sup>	～	発行年 <sup>GE</sup>					巻号 <sup>GD</sup>	
図書	著者名 <sup>HA</sup>	西井正弘／臼杵知史編著							
	書名 <sup>HC</sup>	テキスト 国際環境法							
	出版者 <sup>HB</sup>	有信堂	発行年 <sup>HD</sup>	2	0	1	0	総ページ <sup>HE</sup>	288頁
図書	著者名 <sup>HA</sup>								
	書名 <sup>HC</sup>								
	出版者 <sup>HB</sup>		発行年 <sup>HD</sup>					総ページ <sup>HE</sup>	

欧文概要 EZ

In this study, we have made research on “Compliance System” of each Global Environmental Conventions and then on the comparison of Human Rights Conventions or Arms Control Conventions. Those conventions have common purpose to achieve “common interest of international community”.

In relation to the “compliance procedure” of environmental treaties, the Conference of the Parties(COP) serves as the principal supervisory institution to the Non-Compliance Parties with supportive advice through the Secretariat or Compliance Committee. The human rights conventions have the aim to protect the victims from the Contracting Parties and have made a Follow-Up mechanism by the practice of International Monitoring Bodies. The Arms Control conventions have the mechanism to achieve the disarmament or non-proliferation of WMD with the voluntary information from the State itself.

On the initiation of the Compliance Procedure, there are common features in these fields. One of these is non-function of the State Application system.

As the result of this Study, the Treaty systems to pursue the “Common Interest of International Community” will take the “Integrated Model” as the International Monitoring Body, composed by the State representatives or personal capacities, have competence not to make the coercive measures but to make the supportive or advisory measures.